

氏名	辻本 健	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	小児看護学				
学位	修士（看護学）				
学歴	自治医科大学大学院看護学研究科				
経歴	2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教				
所属学会（役職）	日本小児がん看護学会、日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本看護科学学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術（第3版） 第2章4節	単著	あり	メジカルフレンド社、P422 第2章4節、P45-55	添田啓子、鈴木千衣、三宅玉恵、田村 佳士枝、 <u>辻本健</u> 他	2022.12
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	退院後の小児がん患児をもつ両親のレジ リエンスの体験－テキストマイニングに よる自由記述分析の解析から－	共同	第69回日本小児保健協会学 術集会,三重		○ <u>辻本健</u> 、横山由美	2022.6
2	Parents' experience of their child's recuperation from acute lymphocytic leukemia during maintenance therapy	共同	26th East Asian Forum of Nursing,Tokyo		○ <u>Ken Tsujimoto</u> , Yumi Yokoyama	2023.3
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究	退院後の小児がん患児をもつ両親 のレジリエンスの概念構築		研究代表者	2019.4～2023.3	
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）	AYA世代の小児期発症慢性疾患患 者の包括的看護支援ガイドライン の開発		研究分担者	2022.4～2026.3	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	小児看護学Ⅰ		7	講義担当補助として参加した。オンライン授業に伴う準備・設定、レ ポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育 に参画した。		
2	小児看護学Ⅱ	○	8	科目責任者としてオムニバスの授業が円滑に進むよう各担当教員と調 整を図り役割を果たした。血液腫瘍疾患をもつ子どもと家族の看護を 担当した。主な血液腫瘍疾患の症状、観察ポイント、治療方法、子ど もと家族への看護の必要性や方法を理解できるよう動画や紙芝居、絵 本を用いてイメージできるよう対面での講義を行った。		

3	アカデミックリテラシー		8	「研究論文を読む」のクリティークの視点とグループワークに関する講義を担当した。研究論文を読む意味、クリティークの方法等を理解できるよう実際の論文を用いてクリティークし、対面での講義を行った。グループワークでは、スムーズなグループワークが出来るよう参画した。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育に参画した。
4	子どもの保健		9	良くみられる子どもの症状への理解と対応、病気をもつ子どもと家族に関する講義を2コマ担当した。動画や絵本を用いて学生がイメージしやすいように講義を行った。また、「バイタル測定」において演習2コマの主担当を行った。演習物品の準備、整備、演習室の設営を行い、学生が子どもに興味を持ちバイタル測定できるよう子どもの特徴を伝えながら支援した。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育に参画した。

(2) 演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学Ⅲ		15	3グループ(学生23名)を担当し、グループ討議、学習を通し、学生がネフローゼ症候群・口唇口蓋裂を発症した子どもと家族の看護の必要性・方向性をグループ討議の中から見出せるように支援を行った。
2	小児看護学Ⅳ		15	「輸液管理」「清潔ケア」において演習の主担当を行った。演習物品の準備、整備、演習室の設営を行った。学生が事例の子どもと家族への小児看護技術を主体的に習得できるように支援した。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育に参画した。

(3) 実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学実習		2022.9.12～9.23 .10.31～12.23 (2単位90時間×5クール)	学生26名を担当し、見学実習とオンラインでの事例展開を通して、子どもの安全を守り、学生が小児看護学の目的目標に沿った看護を展開できるよう、臨床指導者と連携を図りながら指導を行った。個々の学生に合わせた実習指導を臨床指導者と連携を図りながら行った。
2	総合実習		2022.7.11～7.29 (3単位180時間)	学生4名を担当し、実習前の事前ゼミにおいて、学生個々が探求したい課題を明確にし、総合実習計画書を作成できるよう指導した。見学実習とオンラインで事例展開をした後、総合実習計画書をもとにOSCEを行った。個々の学生が課題とする看護を実施し、看護の効果を確認できるように臨床指導者と連携を図りながら支援を行った。
3	IPW実習		2022.10.4～10.7 (1単位45時間)	学生6名を担当し、円滑に実習が進むように調整を行い、指導した。

(4) 論文指導

	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2022.4～2023.1	主指導	2名 副指導 名

(5) その他

	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	該当なし		

4. 社会貢献活動

(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師

	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	性・エイズ講演会	群馬県	「性の健康 性感染症予防と避妊」	2022.10.
2	高校出張講座	武蔵生越高校	「小児看護とは？」	2023.3.

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等

	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	該当なし		

(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	ダイバーシティ委員会（委員会活動の広報）		2020.4～2023.3
2	学科等における委員会等	看護学科 総合実習		2020.4～2023.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	2022年度 一般社団法人日本小児看護学会研究奨励賞	日本小児看護学会	2022.12	
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			